

サーモグラフィカメラシステム 簡易マニュアル

はじめに

サーモグラフィカメラSWS-5000Jをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は動体検知と熱源検知を組み合わせる事で人体を特定し、人体の表面温度を検出し、発熱している可能性のある方に別途体温計で検温していただくためのツールです。

※体温測定機器ではありません。

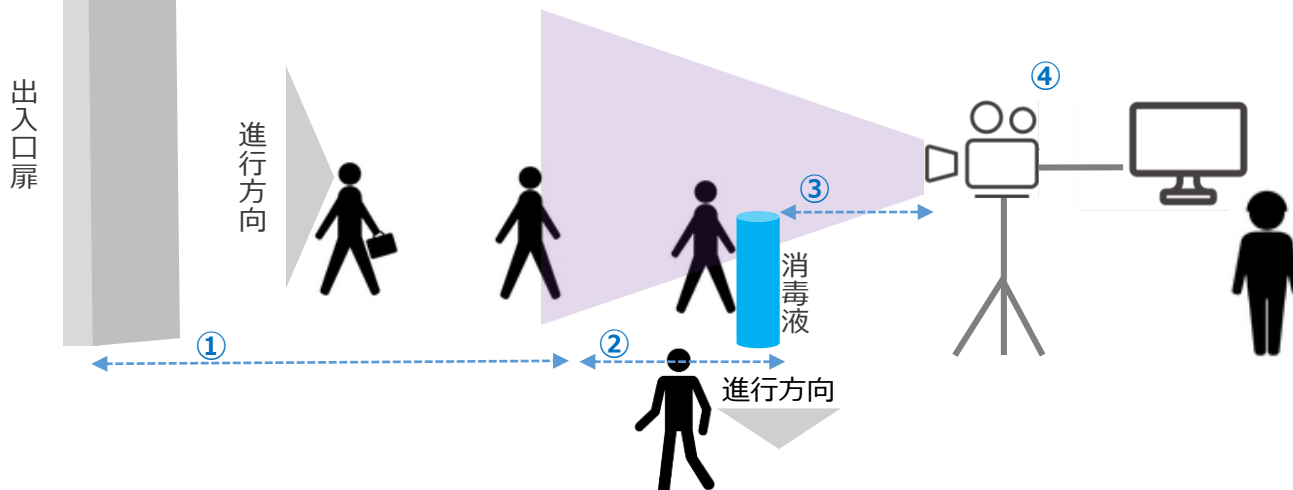
人体の表面温度は環境によって変動します。特に冬季の寒い時期は外から屋内へ入ってくる方と屋内の空調がきた環境にいた方とでは表面温度に大きな差があります。季節によって気温の変動が大きな日本ではサーモグラフィカメラの運用に工夫が必要です。

本書及び取扱説明書を熟読してサーモグラフィカメラの特性を知っていただき効果的に製品をご活用いただければ幸いです。

サーモグラフィカメラの特性と注意点

- 1.電源をいれてから10分間後に画面が立ち上がり、その後約10分間は赤外線センサーが周囲の環境になじむまでの間、検出温度が不安定ですので少なくとも**運用開始20分前にはカメラの電源をいれてください。**
- 2.本製品のカメラからの検知距離範囲は**1～3m推奨**、最大で5mです。
赤外線特性上、カメラからの距離が遠いほど検出温度が低く表示されます。
人物が1m以上近づく可能性のある場所にカメラを設置しないでください。
- 3.季節や環境によって体表面温度が変動するため、本製品では補正ボリュームで表示される温度を-10～+5℃まで増減することができます。冬季は外から入ってくる方の実体温を測定し、その温度が表示されるように補正していただくことをおすすめします。
ただし、屋内にいた方が同じ導線上を進んで外出する場合は、表示温度が高く表示され、警報が鳴る可能性があります。**特に冬季は屋内から入る方と出る方の導線を分けるもしくは位置を変える等の工夫が必要です。**
- 5.本製品は屋内仕様で周囲温度15～35℃、無風、直射日光の差し込まない場所でご使用ください。特に出入口付近に設置された場合、扉の開閉によって外気温が入り、周囲環境温度が変動します。そのような場所では正確な温度が検出できない可能性があります。
出来る限り扉付近での設置は避けてください。

運用イメージ



- ①外気温が入る扉付近からカメラ検出位置までは出来るだけ距離を設けてください。
- ②カメラ検出位置はカメラから1～3mが推奨です。その範囲に消毒液等を設置しておく、より効果的に検知できるのでおすすめです。
- ③上記のカメラから消毒液までの間が2mだとすると、その位置で対象人物の実体温が表示されるように、補正ボリュームで調整してください。
- ④カメラには直射日光が当たらない、空調等の風が当たらないよう注意してください。

こんなときは

【温度が表示しない】

本製品は34.0℃以上の熱源を人体とみなし、検出しております。温度が表示されない場合は34.0℃以下と認識しています。

原因①冬季で外気温にさらされたため表面温度が著しく低下している。

→対策：温度表示がなくても異常ではありませんが、相対的に体表温度が低い人が多い場合は補正ボリュームで表示温度を上げてください。

原因②カメラの周囲環境の変化により、赤外線センサーの動作が不安定になっている。

→対策：十字キーの「←」「→」ボタンを同時押ししてください。

シャッターリセットがかり、赤外線センサーが温度補正します。

